

誰も教えてくれなかった 乳腺エコー

何森亜由美(著)

住友病院診療技術部超音波技術科

尾羽根範員

「何となくおかしい」が
理論的に裏付けられる書

何ともインパクトのあるタイトルの書である。乳房超音波を解説しようとする、どうしても疾患を列記してその画像所見の特徴は……となる。いきおい検査もその所見に適合する画像を見つけようとする。検査の導入や総合的な解説としてはそれで間違いではないのだが、本書はそれと全く違う方向から切り込んでおり、まさに『誰も教えてくれなかった乳腺エコー』である。

高分解能の装置を駆使して、普段最も多く見ているであろう正常乳腺の構造を、その画像の成り立ちから徹底的に解説を加えている。正常構造を知ってこそその異常所見であるということを痛感させられ、それが小さな病変や鑑別困難な症例を見分ける道だと著者は説いている。

ブロープ走査には著者独特といってもよい方法が解説されている。一般的な走査法とは異なる部分があるのだが、正常構造からの逸脱部を探すという信念に基づいての走査であり、よくありがちな「こうしなければならない」という考えはひとまずおいて走査の意味を考えてみることをお勧めする。また、これまで意外と触れられていなかった、どの範囲を走査すればいいのかという疑問にもページを割いて解説が加えられている。乳房をくまなく走査するという第一義に基づき、自身の走査を振り返ってみるよい機会だろう。

画質設定については、昨今の画像処理全盛の画調に対して、階調度を重視して質的診断を意識した条件が呈示されている。不自然なまでに構造物を連続させることなく、構造の詳細を読み取ることができる画質からは、“病変は構造の変化から読み取るものだ”という著者の声が聞こえてくる

ように大いに共感する。

そしていよいよ腺葉構造読影による乳房観察の実践例へと章が進む。画像とシェーマで詳しい解説が加えられているが、慣れないうちは、どこに差があるのか理解が難しいかもしれない。本書にはQRコードによる動画配信が付録として用意されている。動画像を見ることで大いに構造を読み解く助けになるだろう。われわれも日頃の検査で小さな病変を発見したり、良悪性を見分けたりしている。何となくおかしいという雰囲気、本書によって理論的に裏付けられていることに感嘆を覚えたのは事実である。

最近、マンモグラフィやMRIなどで指摘された病変を超音波で検索する2nd look USをよく耳にするが、その際の位置合わせについても、構造をもとにして詳細に解説されており、助かる検者は非常に多いのではないと思う。

著者の考えを、経験を、とことん解説している本書を読み込んで検査に活用してほしい。最後に蛇足ながら実際の検査について述べておきたい。画面に食い入るように一点に集中して観察するのではなく、全体を眺めるような気持ちで走査し、ここぞとなれば集中する。そういう緩急の使い分けが正常構造からの逸脱部を探すコツではないかと思考する。



●B5/頁168/2014年
定価：本体 5,500 円＋税
[ISBN978-4-260-01938-5]
医学書院 刊